



経歴		
平成 3年 4月	総務府・総務庁合同採用	
平成 14年 7月	総務省大臣官房総務課課長補佐	
平成 15年 5月	同 行政評価局評価監視調査官	
平成 16年 4月	国内留学(東京大学公共政策大学院)	
平成 18年 4月	内閣府日本学術会議事務局企画課課長補佐	
平成 18年 10月	同 男女共同参画局調査課調査官	
平成 20年 7月	同 賞賛局審査官	
平成 22年 7月	同 官民競争入札等監理委員会事務局参事官	
平成 24年 9月	現職	

いつの間にか就職して20年以上が経ちました。家庭負担等が大きくなりがちな女性が、働き続ける上での大きなハードルは長時間勤務や転勤です。近い年代の女性同僚の内何人かは、出産後長時間働ける目処が立たないことや家族の海外勤務と同行することなどを理由に退職しました。今は当時と比べると女性職員の採用数も増え、昨年は海外勤務する配偶者に同行するための休業制度も創設され、隔世の感があります。

私自身は、行政機関の組織や定員の査定や政策評価制度の創設、法令審査等の官房業務など幅広い業務に携わり、子供を持つまでは起きていた時間の大半を仕事にふりむけていました。ところが出産後は外で働ける時間の捻出がハードルです。育児後のタイミングで国内留学の機会をいただいたのは、業務上関心のあったテーマに取り組むこともでき、子育てとの両立もしやすく、非常に有り難かったです。

今では、複数のシッターさんなどに留守をお願いし、業務上は周囲との情報共有に心がけ、持ち帰り残業で業務をこなしたり、急な国会対応では子供を一時職場に連れてきたりと、時に綱渡りをしつつ時間をやりくりして働いています。こうした生活で、相手の事情をくみ取り同時に複数の物事を処理する能力

を鍛えられたとも感じていますし、生活者として“くらしの中に”総務省の仕事を実感するようにもなりました。

現在私が所属する統計局経済統計課は、経済センサス一活動調査を始めとする3つの調査業務を担っています。総勢47名の大所帯で、介護や育児、妊娠・出産、心身の健康不安、自己研鑽希望など様々な事情や意向の職員がいますので、女性が男性に関わらず各々の持つ能力や時間を掘出し協力し合い成果を挙げるマネジメントが不可欠です。

外出や休暇予定等を情報共有して支障ないよう業務を組み立て、時間外の打合せは極力避ける等の工夫をし、必要に応じ業務分担を柔軟に見直したり人事担当とかけ合ったりする一方で、個々の職員は、時間を効率的に使った質の高い仕事を心がける必要があります。言うは易く行うは難しい日々の努力の積み上げにより、働きやすい職場環境、ひいてはよい業績が生まれると感じています。

フィールドが広い総務省ではくらしの中に業務との繋がりを感ずる場面が多いはずで、女性の皆さんも男性の皆さんも、生活者としての視点も持ち業務に貢献する“くらしの中に”輝ける総務省の一員になりませんか。興味を持たれた方は、ぜひ官庁訪問に来てみてください。

Naoko Kurita

統計局
統計調査部経済統計課長
栗田 奈央子

女性も男性も“くらしの中に”輝ける総務省



経歴		
平成 11年 4月	総務府採用	
平成 14年 4月	総務省行政管理局 行政情報システム企画課主査	
平成 15年 7月	米国留学(ハーバード大学 ケネディ行政大学院)	
平成 17年 6月	総務省人事・恩給局参事官補佐	
平成 17年 10月	同 行政管理局企画調整課 行政手続・制度調査室課長補佐	
平成 19年 7月	同 消防庁消防課 危険物保安室・特殊災害室課長補佐	
平成 21年 7月	同 人事・恩給局参事官補佐	
平成 23年 8月	国家公務員制度改革推進本部事務局 参事官補佐	
平成 24年 4月	現職	

行政評価局行政相談課
上席評価監視調査官
平野 欧里絵

Orie Hirano

楽観的に、真剣に

元気をつくる！ MICの女性職員



経歴		
平成 6年 4月	郵政省採用	
平成 13年 1月	総務省情報通信政策局 コンテンツ流通促進室課長補佐	
平成 14年 8月	同 自治体行政局自治体政策課国際室課長補佐	
平成 16年 7月	同 情報通信政策局技術政策課課長補佐	
平成 18年 8月	同 郵政行政局通信事業課課長補佐	
平成 19年 7月	同 総務省情報通信政策局第一分室課長補佐	
平成 20年 7月	同 大臣官房企画課課長補佐	
平成 22年 7月	同 情報流通行政局情報流通振興課 情報流通高度化推進室長	
平成 25年 7月	現職	

私自身は、昨年の夏までICT(情報通信技術)を健康・医療分野でいかに活用していくか、という仕事に3年間携わり、内閣官房や厚生労働省など他省庁や自治体の関係者、現場の一線で活躍されている医師、企業の担当者など、多くの方々協力しながら、地域医療のICT化のモデル事業や震災復興のプロジェクトを進めてきました。ICTというと技術的な傾向が強いのではないかとということで女性には敬遠されがちですが、利活用政策は、「どうしたらICTでもっと日々の生活が便利になるのか」という問題提起が原点ですので、女性目線でき気づくことのできないうきめ細やかさや気付きを政策にも反映できることが多くあります。また、プロジェクトを進めていく上で、女性ならではの柔軟なコミュニケーション能力も、関係者間の調整で力を発揮しました。

現在は、公共放送の分野を担当しています。アイデア勝負の前職とは異なり、放送法に基づく判断が仕事の中心です。国会審議への対応も多く発生し、神経を使う場面もありますが、日々重要な経験を積み重ねています。こうした分野は、従来は男性が多い傾向があったように思いますが、総務省では、このような分野でも女性をどんどん登用しており、女性

が活躍できる分野は確実に広がっています。

また、女性が働き続けていく上での一番の課題と言われる「仕事と家庭の両立」ですが、子どもが生まれてからは、「とにかく一日一日を乗り越える」という気持ちで臨んでいます。仕事柄、朝、子供を送り出す時には予想もしていなかった仕事が発生したり、子どもが体調を崩したので迎えにいかななくてはならなかったりと、日々、様々なことが発生しますが、両親、職場の上司・同僚の理解や、息子の学校の先生方や友人のお母さん方の支援があった、ようやくここまでこられたというのが正直な思いです。幸い、職場の同僚である夫も、育児を中心に多くの家事を分担してくれるので、とても助かっています。また、総務省でいち早く導入されたテレワーク(在宅勤務)を活用できたことも非常に助かりました。

国家公務員の仕事、その中でも総務省の仕事というのは、女性のコミュニケーション能力を大いに発揮できる仕事だと思いますし、いろいろな人と会いたい、新しいことを学び続けたいという、よい意味での好奇心やまじめさを持っている女性にはびつたりの職場なのではないかと思っています。ぜひ、一人でも多くの女性の方が総務省にいらして、一緒に働けることを楽しみにしています。

Kyoko Yoshida

情報流通行政局
放送政策課企画官
吉田 恭子

職場で活かす「女子力」



経歴		
平成 15年 4月	総務省採用	
	同 自治体行政局行政課	
平成 15年 8月	山梨県総務部市町村課	
平成 17年 4月	総務省大臣官房管理室	
平成 18年 4月	同 自治体行政局地方債課	
平成 20年 7月	アメリカ留学(コロンビア大学)	
平成 22年 7月	高知県総務部政策企画課企画監	
平成 23年 4月	同 地域福祉部地域福祉政策課長	
平成 23年 9月	同 総務部財政課長	
平成 25年 4月	現職	

自治体行政局
地方債課課長補佐
鷺頭 美央

Mio Washizu

バリキャリア? デキる妻? ワーママ? それとも全部?

これまで主に、国家公務員制度改革や、行政通則法的な法令の見直しなどの行政管理分野の業務に携わってきました。現在は、行政相談という、行政に対する国民の苦情解決を促進するための制度を担当しています。

行政管理分野の仕事は、国民が直接に接する行政サービスそのものを形作る仕事とは一味違い、それらが人々の信頼を得てよりよく提供されるようにするために、行政制度・運営の改善を進める、縁の下の力持ち的存在です。

現在、仕事と家庭の両立について試行錯誤の毎日を送っていますが、育児をする中で得られた生活者としての視点も、これからの業務に活かしていきたいと思っています。

就職から十数年を経ましたが、育児休業から復帰し、保育園のお迎えというタイムリミットがある中での仕事の仕方は以前とは違います。子供を持つ前は、必要があれば一日二十四時間、仕事のことだけ考えていることもできました。でも、1歳児を相手にしながらでは、他に気を向けると、転んで怪我をされたりします。否応なしに目の前の事に気持ちを集中しなければなりません。

これまで約一年、周囲のたくさんの方々の御理解と御協力を得ながら、何とか過ごして

くることができましたが、職場にいる限られた時間で、より効率的に質の高い仕事ができるよう、もっと工夫していかなければと思っています。

今までの仕事上、例えば、目標に向けて克服すべき課題が多く、時間が足りないときなど、もう先に進めないのではという困難な事態が何度もありました。それを上司や同僚の方々と共に越えて(時には強行突破して?)くる中で大切だと思ったのは、大変なときほど楽観的であることです。もちろん、なんとなかなさと単にポジティブだけでなく、なんとかするための手段を考えて最大限の努力を尽くすことが重要です。

著名な元スポーツ選手の言葉に「真剣だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。」というものがあるそうです。今後、育児でも仕事でも、壁にぶつかって愚痴を吐きたくなるときがあるかもしれませんが、そんなときこそ、必ず越えられると前向きに構えながら、知恵を絞って進もうと思います。共に知恵を絞ってくれる仲間もいるのが総務省です。

みなさんと、楽観的に、真剣に、一緒に仕事ができることを楽しみにしています。